

令和4年度(2022年度)セタシジミ肥満度モニタリング

井戸本純一・佐野聡哉

1. 目的

セタシジミの産卵前の肥満度は近年大きく変動しており、北湖一円の漁場で値に差はあるものの、その増減傾向はほぼ一致している。全湖的な現象と考えられるこの変動をより詳細にとらえるため、2010年度以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリング調査を実施している。



図1 松原漁場の水深別定線（破線）

2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に4本の調査定線を設けた（図1）。ほぼ毎月、調査用定量桁網（採取幅8cm、袋網の目開き10mm）を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同じ方法で肥満度を測定した。

3. 結果

各定線における肥満度の推移を図2に示した。2022年の肥満度は2021年11月から回復しはじめ、1月には平均3.2%に回復したがその後鈍化し、前年は4.4%でピークとなった4月には3.7%にとどまった。しかし、5月には4.1%となり、過去10年間の同月の平均値3.2%にくらべると高かった。

水深10mの肥満度をみると、2021年は4月から5月にかけて低下したが、2022年は3月から4月にかけて低下し、4月の肥満度の差は1.2ポイントまで広がったものの、5月には3.8%とほぼ同じになり、その後の低下からも産卵は同程度であったと考えられた。

貝殻の伸長が盛んな8月から10月にかけての肥満度は、2021年は2.2%から1.7%まで漸減したのに対して2022年はほぼ横ばいで、10月は2.0%と過去13年間で3番目に高く、環境が比較的良好であった可能性が高い。

11月は1.8%、12月は2.5%で前年よりやや低いものの肥満度は回復したが、翌1月は横ばいとなった。その後は回復傾向にあるものの、3月は2.9%にとどまった。

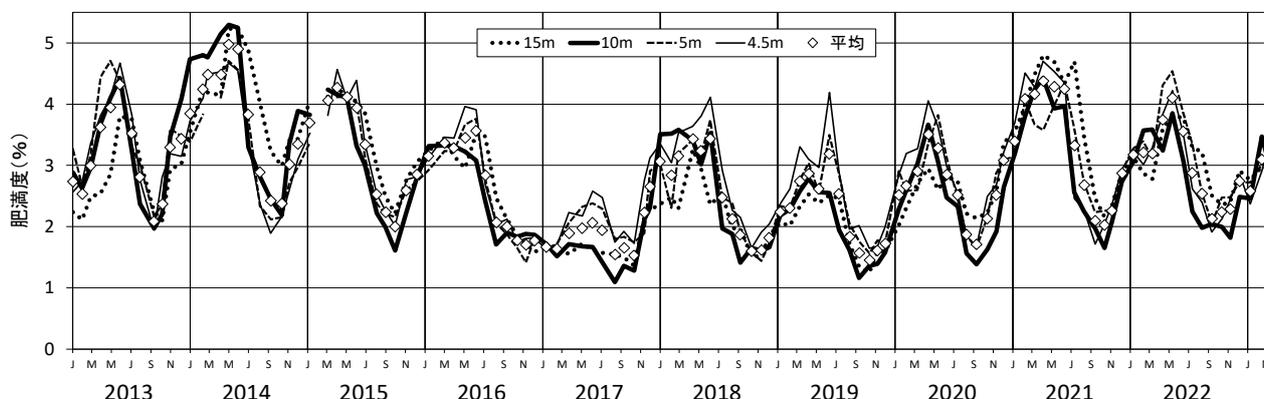


図2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

肥満度(%) = 貝の中身（軟体部）の乾燥重量 / 貝全体の重量（貝殻および内部の水を含む） × 100
本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。